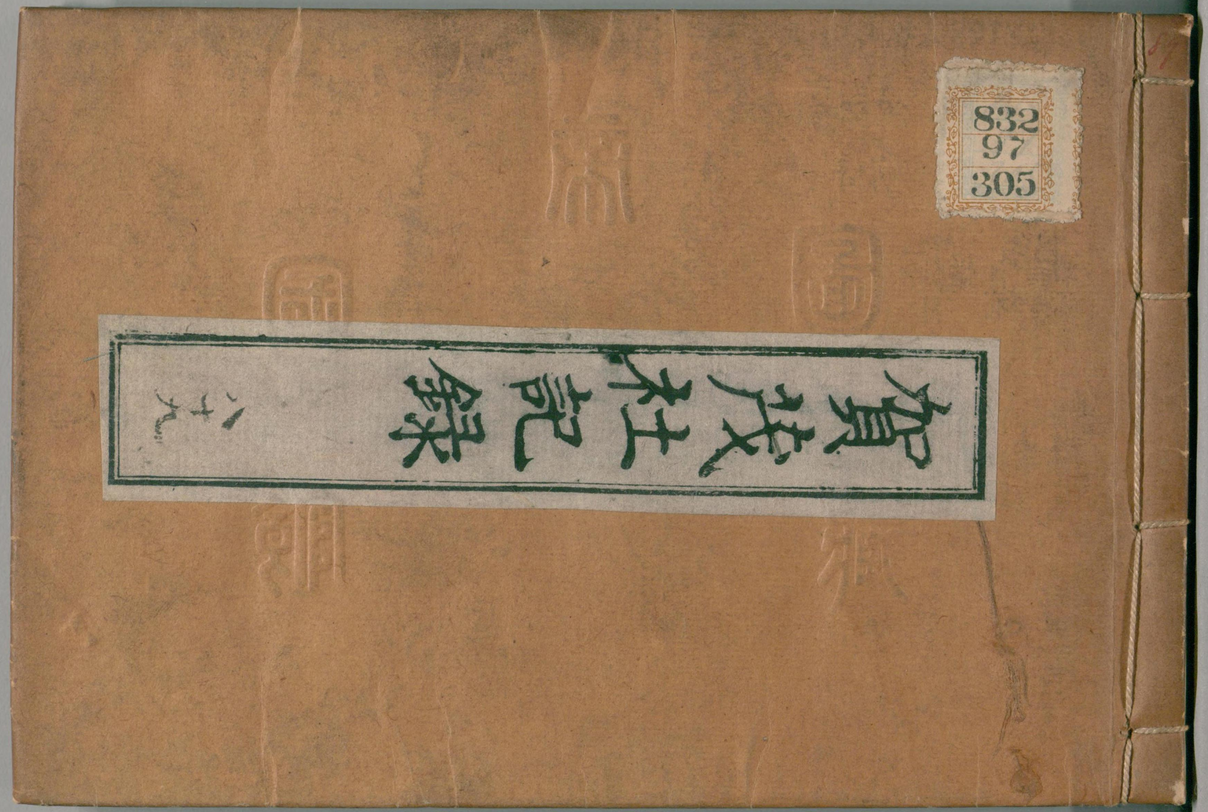


国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

五月

五月朝日所司代後見役

一所司代著府之節先例之通
可致出迎事

一本社修理之儀
可申上事

一交番之事

一次満紙之事

一毒虫除并蛇忌之儀
可申上事

一番組之中
名代之

所用ニ而一ト届ケ今中事

一四番組今五日ニ者并ニ休後見一人外ニ出ル事

一七番組今後三番ニハ仰付今ヨリ今中事

一殿下ヶ丹ニ部

一安志庄ニ馬 例

一毛井ニ時茶煎法

一月時添ル 毛井御供ニ付名一ツ為ニ貰

一至ヲ見苦茶煎服

一入並ニ馬 但添ル外

7529

九月

入直ニ部

一素足ニ時勝負ニ木挙添ル下行通ニ金

一萩出精ニ相遠ニ付

一番ニ時御負本ニ前ニ而人添ル旬御帰ニ而添ル下ニ付ニ而又御通ニ金 入金 但金庫ニ有之

一身体不具ニ而差時ハ其時ハ仰付ニ而御所屋ニ下ニ置故ニ名ニ而ニ事

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』　請求記号 832-305　ガラス使用

但逆馬場ハ金ニ不及
右之通ニ可致旨申渡し
一金津番ニ時落馬ニ
金ニ不及事
下ニ有之ニ
一指藪ニ而も定時下ニ有
但二度ニ外ニ而時ハ
ニ而下ト心得ニ
一鳥帽子ニ而馬ニ
勝負未定ニ落馬ニ時
下ニ有之事
但御所屋ニ而ハ
二方ニ及ハ

五月

一二番左右(大)ニ而ニ時神主ニ
神人ニ以手遣合セトニ
事
一二番ニ而ニ時分ニ
ニ番ニ而ニ略
ニ神ヲトニ事
一田口川辺御所屋ニ
検断ニ而ニ庭ニ
行事馬場ニ事
一雑人ニ制札時神人ニ
一御所屋ニ而ニ
ハ所司ニ神人ニ
令教ニ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

安志ら馬足積み臨期変
庄ら督ふるね倣ら例
（寛永元）元禄十七年二月一日
安永二年二月

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

五月一日祈同代後見之覺悟

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

五月朔日所司代後見之心得

一先乱筥より庁木二枚硯等
取出差出事

一次文箱差出事

一次濡紙差出事

一素麺淋葉荒巻着座之上
一番左右番之宮神主、相談
ろ之後見より勅使申之言
て之進ら申事

一先之番入時次之番合組合事

一二番組合申後名代ら立て警
代ら立ら之ら令申事

一四番組合五日之差弁済時後
見一人生居之事

一七番組之後三番ニハ係合テト
合申事

一段下ケ付ル郎
一安志庄之馬 例
一毛付ル時乗放ス法
一引時落馬 毛付渕後ハ引ク
一至テ見苦敷乗放
一入直ル馬 但落ル外

入直ル郎
一素走ル時勝負未尽前落
ルハ何遍ニテモ入直
一小振ヲ振ヒ相違ル時

一番ル時勝負未ニ前ニ落人
落馬ハ勿論ニ人ニテモ落馬ル時
ハ是又何遍ニテモ不直 但金津ハ不及
一身体不具ニテ走時 人馬共ニ
但此義御所屋ヲハ不見故
ヲ以テ申ス事ニ

一逸馬場ハ不直ニ乍事
云ヲ斗ニテ口訳ル

一金津番ル時落馬ニテ不直ニ不及
事

下々付ル郎
一指鞭一本モ不出時下ル付ル
但一度ル外ニ時ハ下ルヘシ
下トモ下ル式

一烏帽子ヲ被時ハ大垂ヲ出スヘシ
一勝負本近ニ被馬ヲ時大垂ヲ出ス事
　但御祈屋ヨリ不見処ニテ者
　若黒袋
一一番左右大小振ヲ時神主ヨリ神人ヲ
以テ達ヲセトヲ事
一二番小振ヲ時分警固中老人ヲ
三番ヨリ小振ヲ等ヲ神主ヨリ命ヲ
事
一田口川立掛御祈屋ヘ暴、假名検
断ヨリ司代ヘ役ヲ庭屋ヘ行事
馬飼ヲ申事
一雑人ヲ制禁時神人ヨリ申事
一御祈屋ヲ四方ヲ垣ヲ設ケ神人ヘ令警固ヲ
祈司ヨリ設ケ神人ヘ令警固ヲ

一安志ヨリ馬足損ヲ臨期後文庄
ヨリ替ヲ為ヲ借ヲ例
（宝永元）
元禄十七年九月一日

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

安政四丁巳年九月写之　経啓

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

競馬兩日　所司代
階下　等後見覺悟記

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

五月朔日所司代渡見覚悟
之条々

一先帝所崩葬之後自覧第
出観内木二枚九重右方ヶ当
出事

一半紙四五枚浸水内観水之料
差加之事

一倭文之馬死了例ヶ上々ヶそもて
ヲ以ヶ之事神ヲ於渡ヶ番
立ニ上ヶ白付ル令津ル門前
安志ル下馬ヲ以第ニ上中
下九ヲ以ヶ付ル充渡見ヲ人告

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

を開候ても神主ハ右後ろ
当立に候ル事
一九尺を候ル儀ハ上々上に而
中之上中中ニ而下之上下下々
也但迎年ハ上ニ而下ハ大方ニ候
ニ而安志候ニ而内ニハ竹原
勅宣拝宣ハ黄白ニ而ハ
上ハ候ハ公状ニ候ル事也而ハ
御祓速馬ニ而ハ
ら書馬も少シ下ら中ニ上
拵ら候ル事 古実也
一一番之当倭文金津と組合

申神主ハ右後ろ当立に倭文ら
ニ而上ニ一ら祝詞ニ而ハ右後
金津ハ一ら祝詞ニ而ハ右後ろ
也倭文金津ハふ下ら手ら外
十八人ニ而ハ下馬御小屋ニ
ニ而ハ也倭文金津第尾、
当スト云儀ら後見ニ人黎代
ニ而中人申
一一番ニ馬場ニ入と見ニ番と組
合上ハ当ニハ組合二ツ毎ニ
附ハ上ニ而中ニ上ら組合ハ
同ハ左ニ而上ニ而中ニ上ハ

左下ゟ上へ右也二番ゟ番
河の左ニ番也中ニ神ゟ奏
る番左ニ有番ゟ風ゟ方ゟ見
二番ゟ番何ニ有ニ成也此
時名代ゟ立ゟ下ゟ代ニの
被届ゟ中ゟ四番五番位ゟ
番ゟ風二番三番位ゟ名代ニ
被業ゟ者支ニ成也

一組合ゟ後神ゟお渡ゟ上
番ゟ風何ゟ左ゟ一ゟ番ゟ
入の番ゟ起左番ゟ事

一馬雖速業風中強ゟ奏馬
ゟ時ゟ入ゟ中の一疋下ゟ落ゟ左
ゟ風ゟ後右ゟ出ゟ時
ゟ何返ゟ入ゟ風也且御
所屋ゟ第ふ出時ゟ下ゟ
付ゟ事

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

階下後見覺悟之事

一 五日変勝負儀先出之時先馬追之相去事 先馬 追之

或 先馬 先之三長ニ 追之 ■ 追之 ■ 先馬 ■ 先馬

或 ■ 追之 ■ 追之 ■ 先馬 ■ 先馬 ■ 先馬

或

雖和送ニ而指員入ル之ヲ勝
負一方一左右共少振無ニ而出ラ
ニ時ヲ又左手将少振ル一ノ手
勝負小振三返ニ而勝負無
ニ時ヲ歩進ニ而張出ス左右ニ而
小振ルニノ手出ル時ハ左右共ニ
時ハニノ右負且又我将ヲ捨敵
ニ将ニ当テ発ルハ互先進ム方負
事

一馬出ニ而鉾ヲ筆歩ニ而鉾ヲ

ニ間ヲ一遍ニ進三遍已ニ
後ヲニ退ルハ先テ入手将上
方ヘ昇リ敵ニ将ヲ押(左方ニ時ヲ
東面右方ニ時ヲ寄手西将
寄手東将西面)先馬入手将ニ後
我将ニ後リ将トナルノ退ルハ
下リ一退先ルハ上リ一退也并
一遍一遍半二退ホニ時左右方
中央ヲ冠ヲ分ス但一遍二遍
等ニ時左方幄ヲ降下ス役
鉦鼓二声充歩ニ二退半ニ時
先将(左方ハ寄西将
右方ハ寄東将)三遍ニ時
乗已ニ時亦鉦鼓二声充歩ニ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

左介鉦鼓打時節ニ儀ヲ渡見
ニ警ヲ降下ニ合出ル事

一一番十番共ニ前ニ勝負ニハ
抱左退馬当例也ニ合ヲ
負方ヲハ力退ヲ無先一当左
ニ賞祝ヲ如旧例神ヲ左右
方ヘ歩ニ召ヲ出ル事ハ小振ニ
同神人ヲ持棒持中ニ乗リ
脇楽中ヲ人ノ大小振ノ時
歩違右ニヲヲ先下ケ次左
方ニ馬ヲ下ケ合ニ先ヲ
出ヲヲニ右ヲ左十番ヲ左退

右ヲニ入ヲ云持来ニ至比右方
ニヲ合ニ先ニ依ニ右方ニヲ
ヲハ力負定例也ニ又一番左
方乗尻勝負ニ鉾ヲ以ヲ
落ヲニ時ニ依入ニ右方乗
尻下ヲヲ摘豫右実也

一一番左方先ニ左方幄ニ降下
ニ仮歩ノ太鼓并技物ニ掌
合下ニ庭ヲ右降下ニ方ニ
合見ニ事

一歩ノ大鼓成勝負ニ抱左右共
勝負ニ鉾ヲ先退ニ後一声

元左方階下之役者之仕来
之時ニふまりと事

一 左階下之ハ勝負ニ而又左右
勝負ニ而ハ左方勝時ハ
赤地ニ未廣ニ被右方勝時
ハ青地ニ未廣ニ被物ニ而時ハ
当方ニ而ハ並被之外ハ中
央ニ掲ケ右方階下之方ニ令
見ニ其右方ハ其色ニ未
廣ニ被物ニ而ハ役
事

一 勝負之成ハ左右之階下帰、
被案者ニ時階下ハ勝或ハ負
力物之ニ而告ニ勝物ニ而ハ
禄物ニ而纏頭ニ成ニ事

一 三番ニ而ハ小振器之儀翌
日ハ二番ニ而ハ将ニ而ハ
ハ新参人ハ前ニ来り東
ニ階ハ舞り神ニ左方ハ神ニ
小振ニ而ハ必例三番ハ被器
之花水ニ而ハ右ハ云ニ上越
ニ而ハ本ニ而ハ肝煎中ニ素襖
ニ而ハ被申ニ而也且又五日ニ
一式階下ニ役ニ而ハ

勇弓右衛門尉殿
当日二番之番将ニ入候左方
陣下ゟ諸矢ヲ以右方陣下ゟ
三番之番ゟ小振之被射
申ヲ右方陣下ゟ生取越
機嫌悪敷申、諸矢ヲ以
申入夫ゟ悪口ニ而、神之業
座ニ不応、両方ゟ三番ゟ
小振ニ射ニ而上ゟ申入候所
奥中ゟ陣下ゟ生取越ニ而
ゟ申入事

清足誌

右従経威主被傳写之
于時
文政三辰年四月
肥前守経干

競馬兩日所司代
階下等後見覺悟記

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

五月朔日所司代後見覺悟
之条々

一先御所屋敷之座之後自覽第
出現所木二枚名重左方今名
出事

一半紙四五枚浸水而硯水之料
差出之事

一儀文之馬乾了例之上々ニて
可致之事、神主、社法之番
立ニ上々与村ル金津も日前
宮志水下馬ニ是迄之上中
下九疋ニ村ル左後見之人告

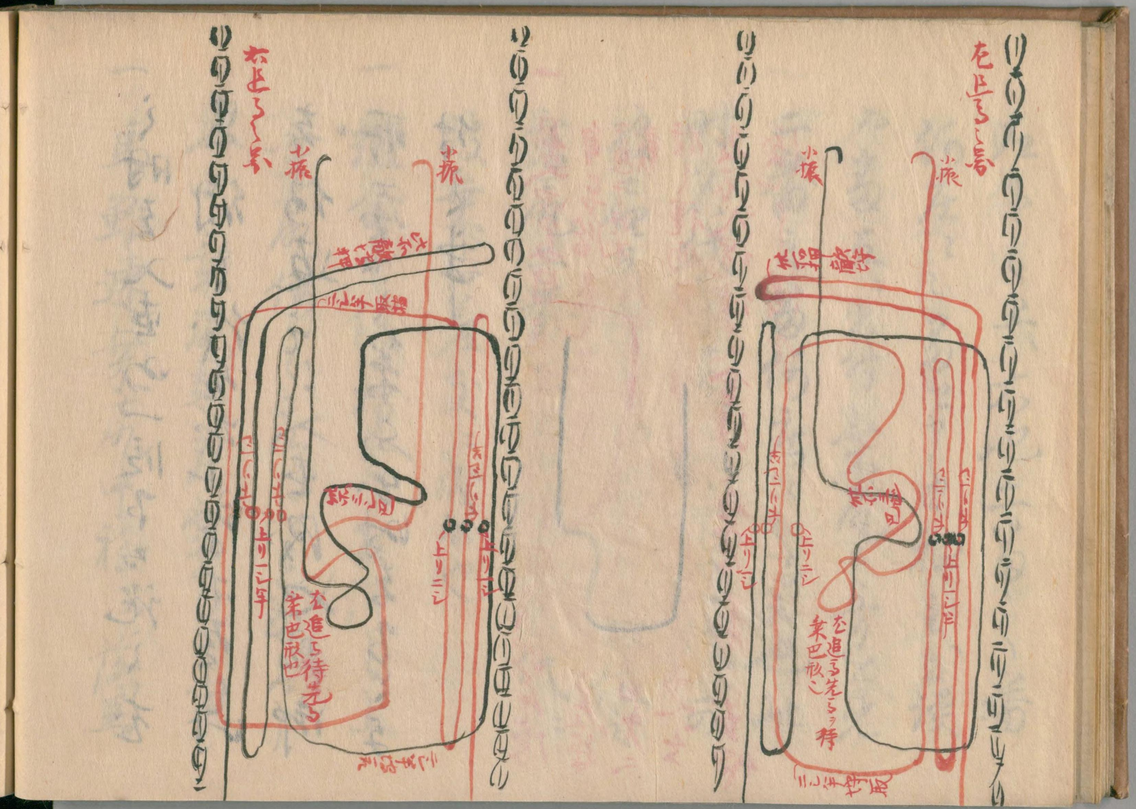
を開伺ひも神主へ御渡ニ而
當主ニ付ル事
一九月ニ付ル例ハ上々上ニ下
中ニ上中中ニ下下ニ上下下々
也但近年ハ上ニ下ハ大方等
ニ要志等ニ而ハ行原
形容ハ賞美ニ附ニ庄
上ハ付拍ニ公拍ニ等也下ニ
伺被速馬ニ而ハ知有上
ニ書馬ニ少シ下ニ中ニ上
拍ニ付ル事 古實也
一一番ニ當侯文金津ニ組合

を開伺ひも神主へ御渡ニ而
當主ニ付ル事
一九月ニ付ル例ハ上々上ニ下
中ニ上中中ニ下下ニ上下下々
也但近年ハ上ニ下ハ大方等
ニ要志等ニ而ハ行原
形容ハ賞美ニ附ニ庄
上ハ付拍ニ公拍ニ等也下ニ
伺被速馬ニ而ハ知有上
ニ書馬ニ少シ下ニ中ニ上
拍ニ付ル事 古實也
一一番ニ當侯文金津ニ組合
半神主へ御渡ニ而當主ニ侯文ニ
當ニ上ニ一ニ記名ニ下ニ左ニ記
金津ニ一ニ記名ニ下ニ右ニ記
也侯文金津ニふ下ニ而ハ
十八人ニ谷下馬町ニ而
座ニ着也侯文金津ニ當ル
當スト云儀ニ後ニ人数代
ニ中入事
一一番ニ馬場ニ入ニ當ニ組
合上ニ取ニ而ハ組合ニツ毎ニ
時ハ上ニ中ニ上ニ組合ニ下
ニ而ハ毎ニ上ニ中ニ上ニ

左下ゟ上六本也二番ゟ番
行左ゟ番七中由神主、妻後
ゟ番ゟ二出付、葉屋ゟ方ヲ見
二番ゟ番行左ゟゟ也此
時名代ヲゟ立ゟ下可代、一の
役神ゟ争ゟ四番五番位ゟ
葉屋行ゟ左なゟゟ番ゟ
入の葉屋起座葉ゟる事
一馬雖速葉屋中程ニ落馬

ゟ時ゟ入出の一疋下ゟ祝ゟ左
足須ゟ後右ヲ主木ヲ時
ゟ行返ゟ入出後也但御
所屋ゟ葉ゟ時ゟゟ
付ゟ事

一夏冬目沼ゟ後所司代祝ヲ後
自年始春ヲ盛ゟ十五左六ゟ差等
三通下ゟ末 若下ゟ左ゟ年行一日ゟ二
着ゟ程両無高半分也下後代ゟ之ゟ
名依入祝儀金津ゟ葉屋勤ゟ事
後ゟ下ゟ



階下後見覧者ノ事

一五日変勝負伐先出ル時先馬追ル相去ル事 先馬 追ル 馬長

然ル後ニ本ノ如シ始終ヲ此ノ如ク列ヲ移但 追ル 先ル ヲ此ノ如ク三ツ雖違先ニ来ル者ヲ移或 追ル 先馬 ヲ此ノ如ク 先馬 追ル ヲ此ノ如ク三ツ

先ニ行ル者ヲ負追ル者三ツ揃後ニ時ヲ以追ル方負ニ先馬ヲ勝儲勝ヲ云追ル負儲負ヲ云但限先ヲ追ル等ハ小振ノ時ノ方

雖和遂ゟ者負ニ成ル者ゟ勝
負方一左右共小振毎ニ出ル
ニ時ニ又ハ手塔小振ル一ツ
勝負小振ニ遅ル時ハ勝負毎
ニ時ニ手塔ゟ限リ五度ニ成
小振ルニ至ル迄ハ手塔ヲ変ル
ニ時ハ先ゟ投ル迄ハ和遂時
ニ入ル事ニ遅ル時ハ先馬送
時ハ二ノ番負旦又我塔ヲ按敵
ニ塔ハ勢能ル方ハ無先進ム負
事 但シ互ニ敵我塔ノ差別サシ希ノ方有
差別度事ニ

一馬出ニ付ニ筆手ニ鉾ヲ

江戸浜ニテ
十九箱時
競馬記ニ
兼署

俄ニ成ニ遅ル方ハ先ヲ入手塔上
次ニ遅漫
毎手鉦
一遅者
ゟ実ニ東面右方ニ時ニ
見外馬ハ手東塔西面
退内馬
進ム也
相手ヲ先ノ
ゟニ手記
無法ニ
無ハ進以
敷退以
記益ヲ
遂法ニ

先ヲ馬ハ入手塔ニ後リ塔ヲ下ルハ迄ル
ニ遅ハ
掛進
ニ遅ニ
陸過
出馬ハ必
不過ニ遅
ニテ下異

ハ上リ一迄先ヲ一迄也并
敷退以一遅一遅半ニ迄ホニ時右方
中央ニ冠ヲ合ス但一遅ニ遅
等ニ時左方幅ニ指ホニ従
鉦敷ニ声ヲ先手ニ二迄半ニ時
ヲ塔左方ハ寄西塔
右方ハ手東塔三遅ニ時
乗巴ニ時亦鉦敷ニ声ヲ先手ニ

右鉦鼓手附ゟ伐ゟ後ゟ
ゟ撃ゟ階下ニ令告知事

一一番十番ゟ前ゟ勝負ニ
抱左退馬等例也ゟ余ゟ
負方ゟ以ゟ退ゟ無拵一当左
ゟ褒歟ゟ如旧例練ゟ右ゟ
方ゟ手ゟ左ゟ手ゟ左ゟ手ゟ小振ゟ
門神人ゟ人拵棒持中ニ来り
附褒中ゟ中ゟ人ゟ大小振ゟ時
手違右ゟゟを先下ケ次左
方ゟ馬ゟ下ケ令就ゟ礼ゟ
出ゟゟ如ゟ十番ゟ左退
ゟ入ゟ云持来ニ至比右方
ゟゟ令就ゟ依ゟ右方ゟゟ
ゟ以ゟ負空例也又一番左
方楽屋勝負ゟ鉾ゟ
為ゟ時ゟ依ゟ至右方楽
屋下ゟ猶褒古実也

一一番左方就ゟ左方幄ゟ階下
ゟ役手太鼓并技拵ゟ楽
令帯ゟ左ゟ左ゟ階下ゟ方ニ
令見ゟ事

一手大鼓役勝負ニ抱左并
勝負ゟ鉾ゟ就ゟ退ゟ後一声

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

先左方階下ニ仗ヲ仕ヘ垂ル
ヲ時ハ右ヨリ之事（左初ニ右放ニ）

一左階下ニテハ勝負ヲ定ム左右
勝負ニ合ヲ左方勝時ハ
赤地ニ未廣ヲ挿右方勝時ハ
青地未廣ヲ挿シ時ハ
両方ヨリ其色ニ未
廣ヲ挿應シ扶持ス事仗ヲ
半

一勝負ニ成ル左右ニ階下帰、
（左入垂シ時ハ左方ヨリ或左或右ノ未廣ヲ揚ル右方ヨリ白未廣ヲ沈揚シ得左ニ為
一足左入垂シ時左リ方ヨリ詰合ヲ以下細ヲ右ヲ勝負遠ル時ハ右
右方ヨリ一ツ）

扶案善シ時階下ヨリ勝或負
為持ニ右ヲ善シ勝持ヲ分ヲ
禄俵ヲ取纏ニ成ヲ事

一三番シ勝ヲ小振異ニ仗朝
日ハ二番ニ勝ヲ増ヲ後恵
事ヲ為ル人口前ニ来リ東
ニ階ヲ昇リ神ヲ左方ヲ神ヲ、
小振ニ為ル例三番ヲハ扶異
ニ於テ為ル右ヲ左ニ上ル
事ヲ内ヲ口肝賀中、素襖
ヲ小扶申ヲ俵也且又五日ヲ
一式階下ニ仗ヲ外ニ為放

兼右衛門尉
第二番ニ着座ス次ニ左方
階下ニ於テ次第ヲ以右方階下ニ
三番ニ着座ス小振ヲ投ル事
如初右方階下ニ於テ
残ル処ノ中入ノ人数ヲ以
如此ノ次第ニ階下ニ於テ
勝負ヲ定ム事

清足誌

右従経威主被傳写之
于時
文政三辰年四月
肥前守経干

安政四丁巳年九月　経啓

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

中指ヨリ競馬會記

五月朔日所司代勤方

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

中指之事

一四月十三日比也三日觴時分觴アリ麻上下
惟子朝飯出ル座席衆所ヽ代列座ヨリ献立
二汁七菜蛸香物高盛共蛤吸物肴三種
御酒洲テ十手ヨリ小折紙硯料紙出ル硯
ヲ右ヘ直シ墨ヲスリ筆ヲ一對取上ケ冝キ
筆ニ墨ヲフクメセ硯ニモタセカケテ墨紙ヲトリ
横折ニシテ可認ヤト座席衆ヘタツヌテ一番
衆ヨリ十番衆迄集尻ノ名ヲ書之座
席元ヘサシ出シ座席ニ分紙ヲサシ依ヘト申ス
所ヽ亭ニヨリ半紙用意アリ座席衆半紙ヲ
分紙ホトニキリノリヲ付テ廿人ニ分紙セラレ一
ヨリ二十ニテ座席元谷ニシタカイ名ノ上ニ三ニ
ヲ分ル又横折ニシテ一ヨリ二十ニテ二三分
次第ニ名ヲ書之立帰リ名集ヲ書サシ出ス
座席衆組合ヲセラル谷ニシタカイ一二ニテ十番
ニテ分取立紙ニ清書シテ礼紙上包ヲシテ
三ツ盃ノ三方ニ載ル書物ハ左盃右ヨリ向ニ肴ヲ
昆布橘栗小角ニ立銚子出ル畧シテ錫ヲ用
ラル座上ノ座席ヨリ次第ニ廻リ所司代ヨリ

所司納之各退出所司代書物儀中ニテ自宅
皆足沙汰来ル ノ折紙ヲ以番立一通出被
所司ヨリ可渡旨事折紙請取帰リ候テ被
テモ宜キ哉

一二十人内座ヲカ候ハヽ其人ヲヨケテ宜キノ
ライ九人ヲ入テ組合其日ノ祝儀ヲ調方法ノ
然時其手若後ヲ呼ヒ出シ右之趣ヲ尚手中
ニテ宜キ人ヲ云撰可差出旨申入事 正保
三年ノ例也當年之衆四人来ル故下ニテ
座ヲカヘ民松九番ノ右ニ當レヒ十番幸甫
徳季一家故幸甫ヲ九番ノ右ヘ上ケ民松ヲ
十番ノ右ヘ下ル我カ一家多下ル定例ナレヒ
當年民松ハ季一流之ヲメニ下ルヽ先年
モ保一流ト顕一流ト遠乱アリシヨシニテ當年
民松ヲ所司亭ニ招座席衆参申サレ
処一座ヲ之後ハ遠乱ニ不及由返答ニ十番
ニトルナリ 保布退右ノ前ヘヒレ手中ヨリ
遠乱有之後日澄顕小折紙出サルヽナリ

小中指之事

一中指以後指揃テニ若輩ノ人躰相遠
ヘヒハ小中指アリ小中指ハ座席衆所司代ヒ
帳綾上下也小袖出ル左ヲ及献當年
一番ノ保布遠乱アリテ澄顕ニ替ルニハ小中指
アリ時刻ハ朝飯後ニテモ中飯後ニテモ所司
ノ勝手ナリ小中指ノ時横折紙ニ書直シ
立紙ニ清書トアレヒ當年ハ八番ト九番ト

二ツカイ相違斗故横折紙ハ直ニ置ヘシト
氏基申サル、ニヘ立紙斗書改ルナリ

指揃之事

一小ノ月ハ大ノ月ハ九日也麻上下帷子ノ着
中指之清書持参硯料紙例ノ如ニシテ
中指清書ノ上包礼紙ヲ取右ニヲキ座席
ヘ今一應吟味有ヘキカノ挨拶シテ左ニ置
五日之差弁調之（差弁散位書トヲ云近来散位ノ二字除カルヽナリ）
先左方次右方ナリ左方ハ名果ノ上字ニ点ヲ
カケ右方ハ下ノ字ニ点ヲカケルヽカイテハ点ヲ
カケテ次ヲ書也先左方書終テ礼紙ヲ包
シテ左ト書次右方同左方但右方ハ
上包ニ左方ヨリ一字下リニ右方ト書一ツ盃
ノ三方ニノセ盃ハ右差弁ハ左ナリ上座ヘ直
置硯料紙撤之先小弁飯ハ酒先ハ豆腐
吸物干物香物有三種肴酒納リ献アリ一ツ
盃艾菖蒲建物ノ取肴今日ハ例所司代
ヨリ始所司代差弁懐中退出

一三日朝アリ但多中指之時入魂也當日ハ朝
座之昼時分ナリ當ヲ清浅縣ヲ依社用
昼飯後各参集

五日差弁神主内見之事

一晦日晩方ニ左右差弁神主持参浄衣指貫ヲ
着ス所司ヲ倍ヲ差弁短尺文匣ニ入モタセ
参リ玄関ヲ上リ所司五日差弁内見ヘ入ル由
中入神主狩衣ヲ着シ先差弁ヲ出シ内覧ニ入ル由

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

申指出ス被見早テ一覧之由申カエサル也請ケ
文書ヲ入神主ニ致祝詞上旨申退去于鶏冠布ノ
取着ニテ御酒出ル神師出ル敷ノ中間今日
持参之差符指揃清書也翌日ニ御所屋
ニテ是ヲ代官衆ニ渡ナリ今日折紙ニ名ト
名乗ト調内心得ニ持参ス由傳也是差
符ハ名乗斗故若誰カト尋ル時ノタメト
著日出馬之廻一種物廻可ル済ス可ニテ
キニノセ神人ノ人晦日持廻左可ル无事也礼紙
上包アリ著日調置ヘキ也不残合ス所
司代ヘ返弁也

翌日毛付之事

一今朝神主許ニテ朝飯アリ浄衣ヲ着ス三日
船アリ当日船三返アリ所司亭ヘ船アリテ
所司代ヘ申通ル也列座後文金津之筆尻
可ル代月代預別当歌後兵田口ナリ田口ハ上下
着ス
同家ヲ外職アルハコノ筆尻モ列座ナリ年
老次ニ着田口末座ニ列ス相伴神主代也
狩衣ヲ着シ上座ニ列ス三方外ハ平折敷給
仕人神主或ハ大工ナリ御酒相済各退出
献立ニ汁五菜

一朝飯後田口ヨリ中間假名換断取来ル著
日調置渡之上包アリ礼紙ナレヘキニスルニ不
及礼紙上包ニテヘキニモ渡ナレ共近来ニ之
晦日ニテモ取ニ来ルトアレ共近来翌日ニ充来ル也
一貝宮ヘ入ル、奥ヘキニ枚ノ上ニ硯一白毛白軸ノ

筆散形墨一挺兎形ニ言之墨ハ頭ヲ紙ニテ
包ミ所結ヘキニヂキリノ枝ノヘキハ差苻ヲ
ノスルナリ（但針ハ自分所持用意ス）針
ノスルナリ品本紙ヨリミテ結半紙四五枚硯水
ヲレタス用馬立書状一通但巣尻ノ名巣ヲ
不書一通入之是ハ餞ニ筆硯相遣ノトキ書
替ノタメナリ前々ハ文箱ニ入レヒツヒルユヘ
覧笥ヘ乱入ヒ左ヲ立一通差苻左右三通
ホ
礼紙上包ニ左方右方ト書左右ヨリ
進ル書文笥ニ入覧笥ヘ入ルナリ覧笥前日
所司ヨリ請名誌具ニ置ヘシ文箱ハ評議所ニ
アリ当日ノ少々沙汰仲ノ与中生ヨリ文箱
ハ後間ニ今日用ノ多ク寄附由ナリ二葉
葵時紋アリ蓋ノ裏ニ奉寄進西池内記
定俊ト金フニテ記シアリ（但シ針中本入ル八是ハ番
立ノ散花ニ置サスベシ）
一所司代浄衣色腰色露藤色八藤指貫
襖単立烏帽子也以上所司代ヘ
持セ送ル也未廣小サカニサス鍔ナキニサス
ヘシト云説アリ今年清茂潮前ヘ尋所
ツバアルハツノモノナレハ壮装束ノ下ニハツハナキヲ
サストモ云事モ未考得ツバアルヲ指不苦カツバ
ナキヲ指トモ浄衣ノ袖ナトノツバニカヽラズ勝手
ヨキトモヨリカヤ然ツバノ大ナル長小サカハ用
立ツ故短キヲ用ナリ
一召供素襖壱人持（今雑色）賀茂白丁ヲ人指持
傘持也着素襖白丁所司ノ供ニ行（雑色）
ニテ祝儀サセヤ也（召具ハ手ニ成共仕ニテ）
（祝儀ヲ取ル事ハ召具ニテハ無ク）

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一昏之事雖芳之記三吟味之事アリ清令
之記ニハ両天七ハ昏拳シ可用意ナリ
近来晴ニテモ昏ヲ着

一到刻限神主ヨリ觸アリ參集ハ集尻所司代
月代別當田也預哥役朝斗也各參集之
後湯漬御酒先其後神主出仕之躰ニテ
出座狩衣淺黄ハ藤指貫折烏帽子也獻
始ル式獻之事朝敘後勝手ノメメニ出ル
事モアリ當年ハ出仕之時先朝獻アレハ
預哥役ノ別當ハ退カルヽヨシナリ先引舟先神主
三方小角ニテ鱠ワカメ著添其外平折ニキ
ワチ高ニテ鱠ワカメ著添三方ニ盃出次銚子
加銚子ハ神前著淨衣ヲ之加上下也獻所司代
上座ト見エテ當時集尻古法ニ覺悟朝
之通ト心得辭儀モナケレハ押テ上座モナリ
カタク其通ニスヘキヨシ學頭申侍ヘユヘ
當年獻モ年老次才也

一先神主ヨリ次才ニ廻リ田口ニテ納ルナリ
床ノ口ハ御所司馬別當休息ニハ次之間ニテ
獻アリ廳屋ヨリ余ノ馬不殘牽ケ申由案
内有テ後文ノ馬以下一度ニ牽ル也次神主
出仕神人先行ス所司代月代別當集尻
同道也集尻ハ畔倉ノ辺ニテ何レ茂對揖
シテ廳屋ヘ進ム神主ハ御所屋形ノ通西
階ノ昇リ北横疊ニ南面ニ座ス別當西階ノ
昇リ西疊ニ東面ニ座ス所司代ハ東階ノ

各神主ヨリ着ク

昇リ東ノ疊西面ニ座ス二本目ノ柱ト三本目ノ柱ノ間ナリ月代ハ断次ノ疊ニ西面ニ座ス三本目ト四本目ノ柱ノ間ナリ別當月代ノ下座ニ長床アリ第尻ノ座ナリ神主西ノ階ヲ昇リ見テ所代東ノ階ヲ昇ナリ奈良橋ノ辺ヨリ見合シツカニ進ム田口南ノ縁ニ西面ニ座ス畢テ別當月代神主ノ衣紋ヲ直ス一所ヲ代先階下ニテ脊揖階ヲ上リシカウシテ座ニ着座揖前ニ馬立ノ黒ニヘ疊ノ後ヘ見ヘシ次後見ノ人覧笞ヨリ硯ヲ取出シヘキニ枚重子ナカラ右ノ脇ヨリ拵出ス末廣ヲ右ノ膝ノ本ニヲキ硯ヲ取テ右ノ方ニ黒ノ又文箱ヲサシ出ス右ノ手ニ取テ前ニ黒ヲ組シトキ右ノ手ニテ蓋ヲトリ右ノ脇硯ヨリ手ニ黒硯ノ下ノヘキヲトリテ硯ノ右ノ方ニ硯ヨリ少進セテ置文箱ノ中ノ差笇ヲ右ヘキニセ黒ノ左ハ北ニヲキ右ヨリ少シ進セテヲキ次馬立圭昇ヲ乞出左ノ手ニモチ右ノ手ニテ文箱ヲ右ノ方ヘ蓋トナラベ黒馬立ノ上包ヲトリ二ツニ折右脇ニヲキ次番立ノ披キ前ニヲキ右ノ方ニ小刀ヲヌキ押ヘ左方ニカウカイシヌキ押ヘハリヲ四方ノ角ニサス若風強ク吹上又タナリ前方ニ本ハリヲサシサスガヨシ立テハカイアリ次上包ヲ巻テ文箱ヘ入ル次後見ノ人水ヲ紙ニ

タンサシ出ス取テ硯ヘシボリ入後ヘカヘシ
墨ヲスル後ニスリ直ス事ナリカクキユヘ元ノ
トヨク余ルホトニスリ置ヘシ次右ノ手ニテ筆
一對ナカラトリ左ノ手ヘ渡シ右ノ手ニテ一對
ナカラサヤラスキカケ見一本ニサヤラサシ
ヘキニラキ書ヘシト思フ筆サヤラヌキヘキニ
置筆ヲ右ヘ取テ墨ヲヨクフクマセテヘ
ギニ持セカケテ置未塵ヲ持テ待也ヨホ
トノ間アルヘシ元ノトシテヨシ次田口假名
檢斷持來ル取テ上包ヲトリニツニ折
右ノ方ニラキ披キ見巻テ文字ヘヘ至上
包モ同前ト時依文金津安志三疋
メ馬ノモノ能ヲホヘヨクヘシ次ニ栗尻東ノ
方ヨリ馬ニ栗生御所屋ノ南ニテ馬上ニテ
神主ヘサ揖アリ其南ヲリト見テ人躰
ヲ見知置ヘ人ノ栗尻ヲ内ニ書分懐中
シ左方ノ勝メノバニ置ヘシ左ノ勝ヲ立筆
ヲトリ墨ヲ合セテ筆ヲ以テ待栗
尻御所屋西ヘ廻リ馬ヲ東頭ニナシ
所司ト見合トキニ馬立馬ノ毛栗尻
メ名ヲ記シ筆ヲ以ナラシ栗尻ヘ氣色ス
栗尻モ氣色シテ北ヘ栗テ行毛付馬
立來庄毎ニ相違アリ右実アルヘキニカク
ニナキ栗尻モアルナリ次金津安志同前
土田以下ハ栗尻ノ名斗記又毛モ度ニ
記ヘキ事ナレハ閑キユヘ畧シテ名斗記ス

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

新古祢宜ニテ葉過テ膝ヲ直シ假名挨
拶ヲ取出シ左方ニ被キヲキ土田以下ノ馬ノ
モヲ付カナカキヲ巻テ文箱ヘ入置未廣
ヲ以待葉尻九折シテ馬場ヲ二十疋ト
カラ大方葉下ルヲ見テ左膝ヲタテ筆ニ
墨ヲ含テ待倭文カケ終例ニテ上々ニテモ
可有ヤト神主ヘ相談シテ馬立ニ上々ト付ル
金津門前安志以下馬ノ足次ニ上中下
九品ニ付ルナリ後見ノ人後ヨリソトヲ
キニテイヅレモ神主ヘ相談シテ馬立ニ付ル
ナリ九品トハ上々上上下中上中中下下リ
上下下々ナリ近年ハ上ノ下ハ大方不見
當由ナリ安志以下ノ内竹原新宮祢宜共
賞美ニテ付ルナリ庄ノ上ニテハ付ヤウ心得
アルヿ也下ニ何ホトハヤキ馬アルモシレヌユヘ上ト
思馬モ少シトテ中上ト付ルヿ故実ノ由ナ
リ左然後見ノ指圖次第ニスルカ能也
七疋ナラカケ終テ膝ヲ立居北疋カケ
テ膝ヲ立シカウカイニテ一番ヨリ十番
ニテシレシスルナリ葉尻不殘東ノ河ヲ
葉来ヲ見テ組合シスルナリ膝ヲ立輩
ニ墨ヲ含セテ持神主ヘ一番ノツカイ倭文庄
金津庄ト中番立ニ下ト記シ左右トシル倭文
金津ノ葉尻一番ヒヤ由ニナリ此書後見
之人物代衆ニテニテヨシ物代ハ心ニテ
所ヨリ代ヨリ案内ヲ之テモ馬ヲ持ヘシルシ
モ

アリ案内ヲ待ルモアルナリ一番ノ馬埒
ヘ入ヲ見テ二番ヲ組合ス上二疋アラハ組合
ス二疋ナクハ上ノ中ノ上ト組合ス以下同様也
中ノ上二疋アラハ上ノ中ノ上左下ノ中上右ヨリ
二番ノ番トシテヲ番モ申スヨシ神主ヘ相
談シテ馬立ニ書付乗尻ノ方ヲ見テ
二番ノツカイドレクトイヘリ此時名代ヲ
立ラレヽ所司代ヘ届ラレヽヘトイヘテヨシ以前
ハ届ニヌ及ヒ近来ノナリ子細ハ番立
番位ノ乗尻二番三番位ノ者共ニ乗ラレハ
差支ノ故ナリ先手モ差支有リシ故也
二番ノ馬埒ヘ入ト三番ヲ組合以下同前
ナリ四番ヲ申渡シ代官流ヘ五日差符ヲ
渡ス先未廣ヲ懐中シテ（ヘキニセメル差符ヲ
右
左ノ手ニ持ハ吹落又ハ左ノ手ニテ押ヘ階ヲ
下リ御所屋ノ東ノ両ノ落南ヨリ二本目
ノ柱ノ通ニテ両ノ落ヲニタケ左ノ足ヲ少
右手ニ持左ノ手ニテ押ヘ
進セテ差符ヲ取直ワタス左右別々ニ取
左方ハ所司代左ノ方右方ハ右ノ方ニノス
ラルヘキヲ素襖ニ渡シ未廣ヲ持参
シ返リ階下ニテ沓揃座揃シテ
膝ヲ立テ五番ヲ組合ス七番ニテハ所司代
組合セヲ下ス番ハ乗尻中可ヒ組合ト申候
旧例也左候其侭所司代組合候ハヽ又
或説ハ二番三ヘ四ハ神主ヘ相談五ヘ六ヘ七ヘ
ハ所司代并ニ組合セ下ス番ハ乗尻中組合
サレヘトヽ申トヽ云説アレヒ下ス番モ乗尻中ヘノ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録．第89冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

アイサツハ申セヒ十番ニテ不残神主ヘ近来ハ相談スル由也九番ノ馬埒ニ入ルヲ見テ十番ヲ組ムテ勝ヲ直シ小刀カウカイサレハリヲスキヘキニ置馬立ヲ巻文箱ヘ入ヲ持次跡ヘキニ取ホ引渡ス各シテ後見ノ人ニ渡ス後見ノ人取テ覧筥ヘ入素襖ニ渡ス末廣ヲ持居也十番終リ各退出御所屋東ノ両タノ所ニテ神主ヲ待合ス集尻中ハ御所屋南方ニ退出之時所司代茂神主里高ノ門前迄相従ノ門前ニテ列立神主何茂ヘ揖了各揖而廳屋切板神主ト對揖相互ニ退ヘキ右御所屋ヨリ神主門ヨリ上リ神供直会ス神主ハ経板堀之内昇前迄各乗輿自石壇着于中央ニ座北上座所司代南ノ上座別當目代集尻中ハ年老次才也着座之輩多近年早生集尻斗也

一當年神主早生也其由委脩ヘ申サル立ヘ所司代目代別當ハイカヽト尋ル所何モ早生ニ然ト也依テ各早生集尻斗也

一當年次路庄馬氏柱集尻賀嶽也下上ニテモ可有ヤト神主ヘ及相談所馬ノ足速ケレハ下ニテモ可然ト申サル立ヘ下ヨリ新宮祢宜季品集尻放嶽也申ノ上ニテモ二有ヤト申所馬ハ遅見シ故新宮祢宜ニ申ノ上可然ト申サルヽ

一番名代ヲ立ル事所司代ヘ集尻届ル所ヘト代ニテモ叶ヤト神主尋ル立ヘ其通申也其後ハ尋ナキニヘニヨノ方ヨリ名代由申之也三人名代アリ八番ノ内カイ御所屋

ノ正面ニテ両人共ニ落馬故入直ス九番
馬出シ遠アツテ入レ直ノ後日庸清
ヘ尋ル所翔日ニハ落馬又ハ出シ遠ナトアレ
ハ何ヘンニテモ入並スレノ由翔日ハ馬ノ口之ヲ見
タメ故也
一先年慶所司代ノ時スカテ一反弛ラテ
俵ニスル之ヲ庸アリ所司代ヘ其ノ致ヘキ
トヽヲ尋馬所ヘ馬ヲニハヒヘト申サレシ也

五日馬立之事

一前日調置五日朝代官衆取ニ来ル礼紙
上包アリ左方右方ト上包ニ書左方ハ
少進ヲ書之若俄馬替ル時ノタメニ通
調一通ハ毛付ヲセヌ也一説ニ所司御馬来
以後取ニ来ル古法トヽヘ
一明和二酉年所司代富季ノ時五日馬立
相認ルホ午刻過迄取ニ不来ニヘ左方ノ
階下氏哲ヘ富季相尋ル所兼知之旨
ヲヤルホ代ツイニヲレニ不来心仍書ニレシ置
一當年安志之馬貴布祢祝之馬替ルホ然
時ハ其所ヨリ先代官衆ヘ届仍代官ヨリ
神主以下九ヶ所馬所并両階下集居
ヤ人所司共ヲ届之但ヤ人ハ初集ニ人ヘ
届入魂之上悉届ニ不及馬替馬所ヨリハ
其馬之集居相手之馬所集居ヘ相届ホ
所司代ヘハ所司ヲ届可有之事毛付書替
ト云事近来ノ例知ヲレヒ馬立ニ通調置

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一通ハ俄馬昏トキノ久メ毛付ラセスト云ヘ
清会ノ所司代ノ記ニ見エル故書昏也

完顕
判

右文政五壬午年四月借用於志顕
家之記写之

正四位下賀茂縣主經平

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

中指ヨリ競馬一會記

五月朔日所司代勤方

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

中指之事

一四月廿二三日比也三日鯛時分鯛アリ麻上下帷子朝飯出ル座席衆所司代列座ナリ献立二汁七菜蛸香物高盛共蛤吸物肴三種御酒済テ十手ヨリ小折紙硯料紙出ル硯ヲ右ノ盆ニ墨ヲスリ筆ヲ一對取上ケ宜キ筆ニ墨ヲフクメセ硯ニモタセカケテ墨紙ヲトリ

横折ニシテ可認ヤト座席衆ノタツテ一番衆ヨリ十番衆迄衆尻ノ名斗書之座席成ハサレ出ル座席ニ付紙ナサレ候ヘト申ス所司亭ニノリ半紙用意アリ座席衆ノ後ノ付紙ホトニキリノリヲ付テサヘニ付紙セラレ一ヨリ二十三ノ座席ノ名ニシタカイ名ノ上ニ二三ノ付ル又横折ニシテ一ヨリ二十三テ一二三付ノ次第ニ名斗書之立帰リ名乗ヲ書サレ出ス座席衆組合ヲセラル名ニシタカイ一二三十番ニテ付板立紙ニ清書シテ礼紙上包ヲシテ三盃ノ三方ニ載ル書物ハ左盃右ナリ向ニ厨子昆布搗栗小角ニスル銚子出ル畧シテ錫ヲ用ラル座上ノ座席ヨリ次第ニ廻リ所司代ヨリ

所司、納之各退出、所司代書物懐中ニテ宿宅
ニ而足洗栗尻ノ折紙ヲ以番立一通出退
所司ニ可渡、至事折紙請ケ帰リ候テ退
テモ宜キ乱

一二十人内座ツカヘ候ハヽ、其人ヲヨケテ宜キ乱
ライナル人ヲ入テ組合、其日ノ祝儀ヲ調ヒ、
然時其手若儀ヲ呼ビモシ、右之趣ヲ尚手中
ニテ宜キ人ヲ択可差出旨ヲ入事、正保
三年ノ例也、當李之衆四人乗ル故下ニテ
座ツカヘ氏松九番ノ右ニ當レ、十番李甫
徳李一家故李甫ヲ九番ノ右ヘ上ケ氏松ヲ
十番ノ右ヘ下ル、我カ一家多下ルハ定例ナレ、
當年氏松ハ李一流之ヲメニ下ルヽ先年
モ保一流ト顕一流ト遠乱アリレヨレニテ當年
氏松ヲ所司亭ニテ招座席衆要申サルヽ
処一座ナ之儀ハ遠乱ニ不及由返答ニヘ十番
ヘ下ルナリ保布退右ノ前ヲレ手中ヨリ
遠乱有之後日澄顕小折紙出サルヽナリ

小中指之事

一中指以後指揃テニ若衆衆人躰相違
ヲレハ小中指アリ小中指ハ座席衆所司代
惟喬上下也小湊ハ酒出ル之及献當年
一番ハ保布遠乱アリテ澄顕ニ替ル、ヘハ小中指
アリ時刻ハ朝飯後ニテモ中飯後ニテモ所司
ノ勝手ナリ小中指ノ時横折紙モ書直シ
立紙ニ清書トアレ、當年ハ八番ト九番ト

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

二ツカイ相逢斗故横折紙ハ直ニ置ヘシト
氏基申サル、ニヘ古紙斗書改ルナリ

指揃之事

一小月ハ八日大ノ月ハ九日也麻上下帷子ヲ着
中指之清書持参硯料紙例ノ如シテ
中指清書ノ上包礼紙ヲ取右ニヲキ座席
元ヘ今一應吟味有ヘキカノ挨拶シテ左ニ置
九日之差弁調之ハ差弁散位書トハ云近キ故
位ノ二字除カルナリ
先左方次右方ナリ左方ハ名乗ノ上ノ字ニ点ヲ
カケ右方ハ下ノ字ニ点ヲカケル一人カイテハ点ヲ
カケテ次ヲ書也先左方書終テ礼紙上包
シテ左方ト書次右方円左方但右方ハ
上包ニ左方ヨリ一字下リニ右方ト書一ツ盃

ハ三方ニノセ盃ハ右差弁ハ左ナリ上座ヘ直
置硯料紙撤之先小竹飯ハ酒生ル豆腐
吸物干物香物肴三種市酒納リ献アリ一ツ
盃艾菖蒲建物ノ取肴今日ハ如例所司代
ヨリ始所司代差弁懐中退出

一三日鶏ヨリ但多中指之時入魂也當日ハ朝
客之昼時分ナリ當主清茂縣主依社用
昼飯後各冬集

五日差弁神主内見之事

一晦日晩方ニ左右差弁神主ハ持参シ浄衣指貫ヲ
着スル所司ハ供来ル差弁短尺文直ニ入モタセ
参リ玄関ヲ上リ所司五日差弁内見ニ入ル、由
ヲ入神主狩衣ヲ着シ出ル差弁ヲ出シ内覧ニ入ル由

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

申指出ス被見早テ一覧之由申カテル也請テ
文匣ニ入神主ニ致祝詞音申退去于鰭若布
取有ニテ御酒出ル神師出ル酋人中間今日
持参之差苓指揃清書也翌日御所屋
ニテ是ヲ代官衆ニ渡ナリ今日折紙ニ名ト
名葉ト調内心得ニ持参スル由傳也是差
苓ハ名葉斗故若誰カト尋ル時ノタメ也
翌日出馬之廻一種物廻可ニ渡ス可ニテ
ヘキニテモ神人二人晦日持廻ル可ル斗也礼紙
上包アリ翌日調置ヘキ也不残台ス三所
司代ニ返ス也

翌日毛付之事

一今朝神主亭ニテ朝飯アリ浄衣ヲ着ス三首
船アリ當日船三反アリ可亭ニ船アリテ
所司代ヨリ通ル也列座ハ倭文金津之葉尻
可司代日代頭別當歌役ニ田口ナリ田口ハ上下
着ス
同家ニ外職アレハコノ葉尻モ列座ナリ年
老次第ニ着田口末座ニ列ス相伴神主代也
狩衣ヲ着シ上座ニ列ス三方外ハ平折敷給
仕人神主或ハ大工ナリ御酒相済各退出
献立二汁五菜

一朝飯後田口ヨリ中間能名検断取ニ来ル翌
日調置渡之上包アリ礼紙ナシヘキニアラス不
及礼紙上包シテヘキニテモ渡トアレハ近来之
晦日ニテモ取ニ来ルトアレハ近来翌日ニ来ル也
一覧答ヘ入ル、具ヘキニ枚ノ上ニ硯一台毛白軸ノ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

筆乾形墨二挺花紙二無之墨ハ頸ヲ紙ニテ
包ニ所浩ヘキニテキニヲノ一枚ノヘキハ差弁ヲ
ノスルナリ針四本紙ヨリニテ浩半紙四五枚硯水
ヲレタメ用馬立書ヲ一通但案元ノ名乗ヲ
不書一通入之是ハ俄ニ案元相違イトキ書
替ノタメナリ前々ハ文箱ニ入レヒツルユヘ
覧筥ヘ直ニ入レ乍ラ立一通差弁左右二通
ホ
礼紙上包ニ左方右方ト書左右ヨリ
進テ書文筥ニ入覧筥ヘ入ルナリ覧筥前ヨリ
所司ヨリ請ヲ訣具ニ置ヘシ文箱ハ辞誠所ニ
アリ弁日所司沙汰人中ノ社中ヨリ出也ヨノ文箱
ハ俗用ニ今日ノ用ノタメ寄附由ナリ二葉
葵蒔絵アリ蓋ノ裏ニ奉寄進西池内記
定俊ト金ニテ記ニアリ但シ針四本入ルニ是ハ番
立ル散花ニ置ニヌシ
一所司代浄衣色腰色露藤色ハ藤指貫
襟草立烏帽子也以上所司ノ代ヘ
持ヒ送ル也未廉ハサカラサス鍔ナキヲサス
ヘシト云説アリ今年清茂潮翁ヘ尋所
ツバアルハツノモノナレハ狂衣束ノ下ニハツハナキヲ
サストモ云事モ未考得ツバアルヲ指不苦カツバ
ナキヲ指ト云浄衣ノ袖ナトノツバニカラズ勝手
ヨキト云ーカ左然ツバノ大ナル長ハサカハ目
立ツ故短キヲ用ナリ
一召供素襖壱人持覧筥白丁弐人沓持
傘持也着素襖白丁所司ノ来所司代亭
ニテ祝儀ヲ申也
国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

一皆之事季芳之記ニ吟味之事アリ清令
之記ニ而天ナレハ皆傘ヲ可用意ナリ
近来晴ニテモ皆ヲ着
一到刻限神主ヨリ觸アリ參集ハ葉尻所ヲ代
目代別當田邑預哥汝朝斗也各參集之
後湯漬御酒出ル其後神主出仕之躰ニテ
出座狩衣浅黄ハ藤指貫折烏帽子也献
始ル献之事朝飯ノ後勝手ノクメニ出ル
事モアリ當年ハ出仕之時出ル朝献アレハ
哥汝ノ
預別當ハ退カルヽヨシナリ先引付出ル神主
三方小角ニテ鱠ワカメ箸添其外平折レキ
フチ高ニテ鱠ワカメ箸添三方ニ盃出次銚子
加銚子ハ神師着浄衣ヲ之加上下也献所代
上座ト見エル當時葉尻古法ヲ覺悟朝
之通ト心得辞儀モナケレハ押テ上座モナリ
カタノ其通ニスヘキヨシ學頭申侍ヘエヘ
當年献モ年老次才也
一先神主ヨリ次才ニ廻リ田口ニテ納ルナリ
床ノ名ハ御祈司馬別當休覚エヘ次之間ニテ
献アリ廊屋ヨリ余ノ馬不残牽ケ申曲案
内有テ侍文ノ馬以下一度ニ牽ル也次神主
出仕神人先行ス祈ヲ代目代別當葉尻
各神主亭ヨリ着坐
門道也葉尻ハ畔倉ノ辺ニテ何レ成對揖
ニテ廊屋ヘ進ム神主ハ御所屋北ノ通西
ノ階ヲ昇リ北ノ横疊ニ南面ニ座ス別當西階ヲ
昇リ西疊東面ニ座ス所ヲ代ハ東ノ階ヲ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

昇り東ノ疊西面ニ座ス二本目ノ柱ト三本目ノ柱ノ間ナリ目代内割次ノ疊ニ西面ニ座ス三本目ト四本目ノ柱ノ間ナリ別當目代ノ下座ニ長床アリ葉尻ノ座ナリ神主西ノ階ヲ昇ヲ見テ所司代東ノ階ヲ昇ナリ奈良橋ノ辺ヨリ見合シツカニ進ム田口南ノ縁ニ西面ニ座ス畢テ別當目代神主ノ衣紋ヲ直ス一所司代先階下ニテ脊揖階ヲ上リシカウシテ座ニ着座揖前ニ馬立ヲ置ニヘ疊ノ後ヘヨルヘシ次後見ノ人覧箇ヨリ硯ヲ取出シヘキニ枚重子ナカラ右ノ脇ヨリ指出ス未廣ヲ右ノ勝ノ末ニヲキ硯ヲ取テ右方ニ置ノ又文箱ヲサシ出ス右ノ手ニ取テ前ニ置辺ヲトキ右ノ手ニテ蓋ヲトリ右ノ脇硯ヨリ手ニヘニ置硯ヲトノヘキヲトリテ硯ノ右ノ方ニ硯ヨリ少進セテ置文箱ノ中ノ差角ヲ右ノヘキニセ置ノ左ハ北ニヲキ右ヨリ少シ進セテヲキ次、馬立書付ヲ取出テ左ノ手ニモテ右ノテニテ文箱ヲ右ノ方ヘ蓋トナラベ置馬立ノ上包ヲトリ二ツニ折右脇ニヲキ次番立ヲ披キ前ニヲキ右ノ方ニハカヲヌキ押ヘ左方ニカウカイヲヌキ押ヘハリヲ四方ノ角ニサス若風強ノ吹上ヌタメナリ前方ニ末ハハリヲサレサスガヨシ立テハカイアリ次上包ヲ巻テ文箱ヘ入ル次後見ノ人水ヲ紙ニヒ

タレサシ出ス取テ視ヘシボリ入後ヘカヘシ
墨ヲスル後ニスリ直ス事ナリカメキユヘユルク
トヨノ余ルホトニスリ墨ヘシ次右ノ手ニテ筆
一對ナカラトリ左ノ手ヘ渡シ右ノ手ニテ一對
ナカラサヤヲスキカケ見一本ニサヤヲサシ
ヘキニラキ書ヘシト思フ筆サヤヲスキヘキニ
置筆ヲ右ヘ取テ墨ヲヨノフクニセテヘ
ギニ持セカケテ墨未廣ヲ持テ待也ヨホ
トノ間アルユヘユルクトシテヨシ次田口假名
私云此以前田口川立ノ兎ノ勤ノ〻假名検断持来ル有之次ニ
検断持来ル取テ上包ヲトリニツニ折
廐屋ヘ行切板ノ処ニテ御馬飼ノ申シ
右ノ方ニラキ披キ見巻テ文第ヘ入墨上
私云今多假名検断ノ披キ見テ左ノ方ニ置
包モ同前ニ時優文金津安志三人
此已下註ニ勤時ノ此ヲ畧ス欤、
ノ馬ノ毛ヲ能ヨホヘヲタヘシ次ニ葉尻東ノ
方ヨリ馬ニ葉生御所屋ノ南ニテ馬上ニテ
神主ヘヲ揖ヲリ其南ヲソト見テ人躰
ヲ見知置セ人ノ葉尻ヲ内ニ書付懐中
シ左ノ方ノ膝ノソバニ墨ヘシ右ノ左ノ膝ヲ立筆
ヲトリ墨ヲ含セテ筆ヲ以テ待葉
尻御所屋西ヲ廻リ馬ヲ東頭ニナシ
ソト假名検断ト馬ノ毛ト見合
所ヲ代ト見合トキニ馬立ニ馬ノ毛葉尻
但カナ検断相違時ハ現在ノ馬ノ毛色ヲ記復刻検断ノ
ノ名ヲ記シ筆ヲ以ナラシ葉尻ヘ氣色ス
傍書アリ
葉尻モ気色シテ北ヘ葉テ行毛付馬
立取庄毎ニ相違アリ古実アルコトニカノ
コトキ葉尻モアルナリ次金津安志尚前
已下
ニ由以下ハ葉尻ノ名斗記ス毛モニ度ニ
記ヘキ事ナレハ前ニキヒ畧シテ名斗記ス

新宮祢宜ニテ乗過テ勝ヲ直ニ假名換
新ヲ取生シ左方ニ被キヲキ土田以下ノ馬ノ
モノ付カナカキヲ巻テ文箱ヘ入置未廣
ヲ以待乗尻九折シテ馬場ヲ二十疋ナ
カラ大方乗下ルヲ見テ左勝ヲタテ筆ニ
黒土ヲ含テ待倭文カケ終例ニテ上々ニテモ
可有ヤト神主ヘ相談シテ馬立ニ上々ト付ル
金津円前安志以下馬ノ足次第ニ上中下
九品ニ付ルナリ後見ノ人後ヨリソト云ヲ
キヒテイヅレモ神主ヘ相談シテ馬立ニ付ル
ナリ九品ハ上々上ノ下中ノ上中中下下ノ
上下下々ナリ近年ハ上ノ下ハ大方不見
當由ナリ安志以下ノ内竹原新宮祢宜ハ
賞美シテ分ルナリ庄ノ上ニテハ付ヤウニ心得
アルヿ也下ニ何ホトハヤキ馬アルモシレヌユヘ上ト
思馬モ少シ下テ中上ト分ルヿ故実ノ由ナ
リ左然後見ノ指図次第ニスルカ能也
北疋ナラカケ終ニテ勝ヲ立居北疋カケヲ
テ勝ヲ左ニシカウカイニテ番組ヲ一番ヨリ十番
ニテシレヲスルナリ乗尻不残東ノ河ヘ
乗来ヲ見テ組合ヲスルナリ勝ヲ立筆
ニ黒土ヲ含セテ持神主ヘ一番ノツカイ倭文庄
金津庄トヲ番立ニ一ト記シ左右トシレス倭文
金津ノ乗尻ヘ番ヲヤ由ニナリ此事後見
之人惣代ノ衆ニテ云テヨシ惣代ハ心ニテ
所ヲ代ヨリ案内ヲ之テモ馬ヲ将ヘ入ルヽモ

アリ案内ヲ待ル、モアルナリ一番之馬場
ヘ入ヲ見テ二番ヲ組合ス上二匹アラハ組合
ス二足ナク上ミノ中上ト組合スル以下同様也
中ノ上二匹アラハ上ノ中ノ上左下ノ中上右ナリ
二番ノ番トレクシ番セ申スヨシ神主ヘ相
談シテ馬立ニ書付ル衆尻ノ方ヲ見テ
二番ノツカイドレクトスナリ此時名代ヲ
立ラレハヽ所司代ヘ届ラレルヘトスヲヨシ昨前
ハ届ニ不及ト近来ノコナリ子細ハ番立
番位ノ衆尻二番三番位ノ名代ニ衆ラレハ
差支ナル故ナリ先年モ差支有リシ故也
二番ノ馬場ヘ入ト三番ヲ組合以下同前
ナリ四番ヲ申渡シ代官流ヘ旨差符ヲ
渡ス先未廣ヲ懐中シテヘキニセル差符ヲ
右
左ノ手ニ持ル吹落又按ニ右ノ手ニテ押ヘ階ヲ
下リ御所屋ノ東ノ雨ダレ落南ヨリ二本目
ノ柱ノ通ニテ雨ダレ落ヲ二タケ左ノ足ヲ少
右ノ手ニ持左ノ手ニテ押ヘ
進セテ差符ヲ取直ワタス左右別々ニ取
左方ハ所司代左ノ方右方ハ右ノ方ニ之
ラルニナリヘキヲ素襖ニ渡シ未廣ヲ持合揖
シ返リ階下ニテ皆揖座揖シテ
膝ヲ立テ五番ヲ組合ス七番ニテハ所司代
組合セヲ下ニ番ハ衆尻中可ル組合ト俄
旧例也左然其侭所司代組合俄ニ又
或説云二番ニ四ニハ神主ヘ相談五ニ六ニ七ニ
ハ所司代ヘ組合セ下ニ番ハ衆尻中組合
サレヘト申ト云説アレ下ニ番モ衆尻中ヘ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

アイサツハ申セヒ十番ニテ不残神主ヘ近来ハ相談スル由也九番ノ馬場江入ルヲ見テ十番ヲ組ムテ勝ヲ直シハ刀カウカイサシハリヲヌキヘキニ黒馬立ヲ巻文箱ヘ入組ヲシテ後見ノ人ニ渡ス（沢硯ヘキニ抜ホ内ニ添ス各ノ後見ノ人取テ覧筥ヘ入素襖ニ渡ス末廣ヲ持居也十番終リ各退出御所屋東ノ両タノ所ニテ神主ヲ待合ス衆尻中ハ御所屋南ノ方ニ退出之時所司代茂神主里真手川前迄相従ヒ川前ニテ列立神主何茂ヘ揖ヲ各揖而廊屋切扱神主ト對揖於扱畢テ退下ニ於御所屋ヨリ神主ハヨリ上リ神供直舎神主ハ笠扱堀之内昇前迄各美沓自石壇着テ中央ニ座北上座所司代南ノ上座別當日代衆尻中ハ年老次第也着座之輩多近年早出衆尻斗也

一當年神主早出也其由委ク脩ニ申サルニヘ所司代日代別當ハイカヽト尋ル所何モ早出ニ然ト也依テ各早出衆尻斗也今也

一當年淡路庄馬氏社衆尻賀取也下上ニテモ可有ヤト神主ヘ及相談所馬ノ足遅ヒニ下ニテモ可然ト申サルニヘ下ト付ル新宮祢宜季吉衆尻敦敬也中上ニテモ一有ヤト申所馬ハ遅見ヒモ新宮祢宜ニハリ中ノ上可然ト申サル、ナリ

一番名代ヲ立ラル、事所司代ヘ衆尻届ラルヘト代ニテモハヤト神主尋ラルニヘ其通申也其後ハ尋ナキニヘニノ方ヨリ名代ノ由申之也三人名代アリ八番ノ労イ御所屋

ノ正面ニテ両人ニテ落馬故入直ス九番
馬ヲ出シ遠アッテ入レ直ノ一後日庸清
ヘ尋ル所朔日ニハ落馬又ハ出シ遠ナトアレ
ハ何ヘンニテモ入直スルノ由朔日ハ馬ノ足ヲ見
タメ故也

一先年座所ヲ代ノ時スカケ一反配ラテ
俄ニ馬之足ニ痛アリ所ヲ代へめの致ヘキ
トテ尋馬所へ馬ヲコハレヘト申サレシ也

五日馬立之事

一前日調置五日朝代官衆取ニ来ル礼紙
上包アリ左方右方ト上包ニ書左方ハ
少進テ書之若俄馬替ル時ノタメニ二通
調一通ハ毛付ヲセス也一説ニ所司即馬来
以後取ニ来ル古法トカヽ

一明和二酉年所ヲ代富季ノ時五日馬立
相認ルホ午刻迄取ニ不来ユヘ左方ノ
階下氏哲ヘ富季相尋ル所某知之旨
ヲヤルタヽツイニ元ニ不来之仍書ヒシ置

一当年安志之馬貴布祢祝之馬替ル然
時ハ其所ヨリ先代官方ヘ届仍代官ヨリ
神主以下十九ケ所馬所并両階下衆方
九人所ヲ共支ニ届之但九人ハ初衆三人ヘ
届入魂之上悉届ニ不及馬替馬所ヨリハ
其馬之衆方相手之馬所衆方ヘ相届ル
所ヲ代ハ所ヲノ届可有之事毛付書替
ト云事近来ノ例知レサレ共馬立ニ通調置

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一通ハ俄馬昏トキノタメ毛付ヲセヌトニテ
清令ノ所司代ヘ記見ニ故書昏也

完顕
判

右文政五壬午年四月借用於志顕
家之記写之

正四位下賀茂縣主經千

安政四巳年九月写之

雑啓

五月朔旨所司代後見之覺悟

終了

清水別地方

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

五月朝日所司代陵見之心得

一先乱管ヨリ片木ニ枚硯等
取出ス事

一次文箱同断差出ス事

一次濡紙差出ス事

一素足ニ而廊下ニ着座ス上
一番左右番ニ而神主ニ相談
スル後見ヨリ契状中ヲ真
ン中ヘ申入事

一先番入埒時次ノ番ヘ組合ヲ
一二番組合ヲ以立ヨリ一ニ番
ヲ合申事

一四番組合五日ニ差符添時後
見一人分ヲ事

終

一七番組合後三番ニハ係合テト
今申事

一段下ケ付之部
一安志庄之馬 尋常
一毛付之時無取不法
一口時落馬 毛付所後ハ乗方
一つのみ
一至ら見苦敷事取
一入直之馬

入直之部
一素走之時勝負未出前ニ
落馬ハ仕廻ニ
一小振少捌未相透ス時

一番之時勝負未出前ニ落
馬ハ勿論ニ乗人ニ而落馬ニ時
ハ是亦仕廻ニ
一身体不具ニ之時ハ馬共
但此段御所屋ニ而不見故
ニ勿論ニ而ニ
一馬[redacted]落
馬ニ[redacted]
一逆馬場ハ入直ニ不及事
馬共ニ同断

下々付ル部
一指鞭一本も不出時
但一本ニ外不出時ハ下ニ
ニ勿論ニ下ト心得

終了

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一一番左右小振し時神主ゟ神人
ゟ以手遣召ス合申事

一二番小振し時分ニ玉串奉行申
一人ゟ参三番ゟ小振略ス式
神主ゟ申合事

但事例ゟ参り候方ゟ之

一田口川立御所屋敷假名検
断所司代ゟ廳屋ニ行
御馬屋ゟ申事

（享保元年ニ改）
一元禄十七年五月一日毛付ス時
安志庄馬土田庄馬ゟ跡合安（の宝永之）
志庄馬足揃ヲ依期後文庄

之替馬拝借之事

右先例有之ニ付

一雑人ゟ制ス拂時神人申付事

文政五壬午歳五月一日後見ス
初座訖

正四位下肥前守経干

終

五月五

階下後見之心得　私記

經丁

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

五月五

左方賢不後見心得

一 指縄用意之事

一 置社人之事 神人

一 太鼓鉦鼓社人之事 雅色

一 根靡屋之事

一 右方賢不見時神人以下知之事

一 当日馬立冠以後時一番先馬可之進方然共中途事

一 一遅二速三速之時鉦二声 先手事 賢下知之事

一 左右之内勝負辞退時 太鼓一声 先手事 左下知之事 但入乱之時不打

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

五月五

一二番入場時三番ヶ山振
ヲ置ク儀右方階下ヨリ
違事　但今ヨリ入魂シ

一入負ル時右方階下ヨリ
尋ニ可来事

一一方落馬抜出ル時少シ遅
キヲ咎ル如キ事シ是
ヲ無理ニ抜出ス可カラス
心

一初筆ヨリ遅ク用捨
ナクスヘシ

一先馬呼追馬指揮不切時
少シ遅クヲ咎ル事シ

一追馬抜出先馬ト呼合時
勝ニハセヌシ

但通例ノ文政元八番左経益
生呼換改ノ如シ

一勝負不ヶ二前ニ落馬
負シ

一落冠負シ

一勝負不ヶ前ニ両左右共
落馬ハ入直シ

一相撲大敵ニ下品ヲ返ス事

五月五

右方隋下後見心得

一畳莊ノ上ニ而事ハ次ノ
一椽座敷ニ而事ハ進
一三番ノ出振略ス後左方
隋下ノ中来ル矛数義ヲ
ヲ達ス肝要ノ一義ナリ
達事

一勝負未ダ一番定落馬ノ
時ハ出口ヨリ右方下馬事

一先馬追馬入替ル出振前
遠ノ時ハ肝要中ノ一義ナリ
事

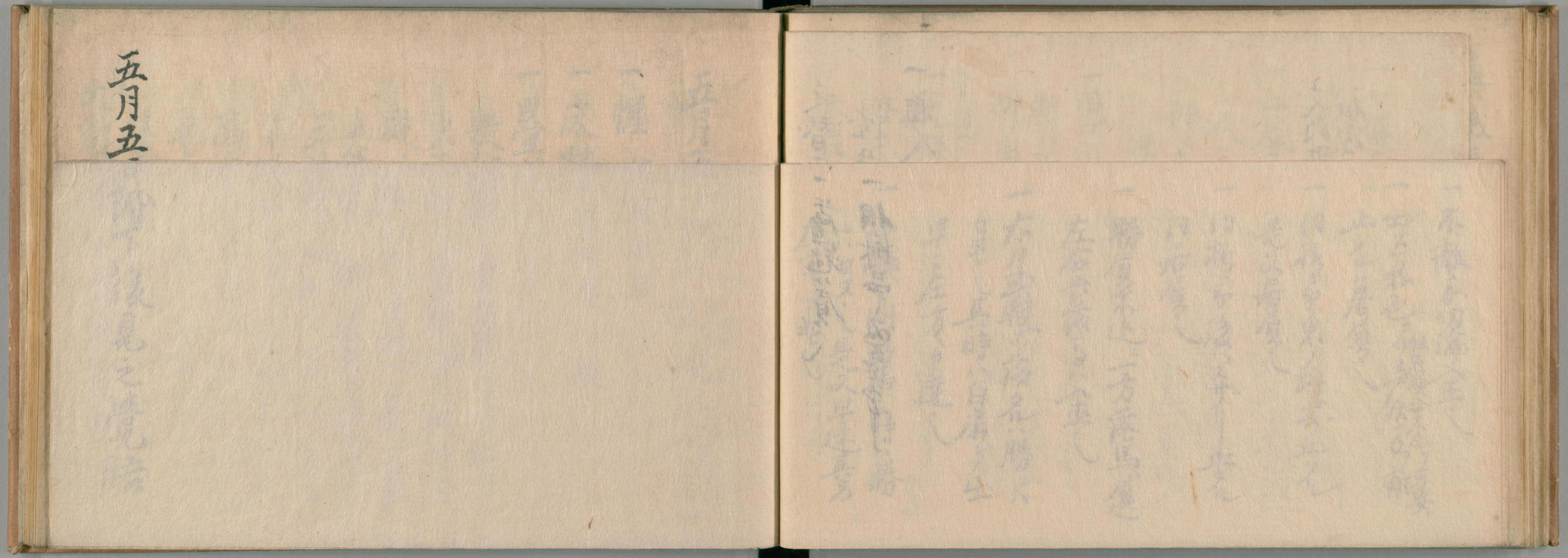
一入ル時白扇ヲ置早速
左方ヘ戻ル事

一声不合抜出ス真ノ

五月五

一落冠ノ頁ニ
一相附品ニ委事ニ

一不離ノ刀論ス
一出ス氣色ニ組寄合不合ノ可要
止名ハ居頁ニ
一日指ノ東ノ埒ニ止名
是又居頁ニ
一日指ノ落スザリ止名
日居頁ニ
一勝頁ニ不迯ニ方落馬頁
左右共ニ論ニ及ス
一左刀武鞭ヲ落名ハ勝ニハ
セヌシ其時ハ白刃ノ出
早ニ左方ヘ逢ニ
一小振ノ間落馬ノ時ハ勝
ニハセヌシ是又早速ニ
左方ヘ逢ニ


五月五

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

五月五日階下後見之覺悟

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

五月五日階下後見之覺悟

一幄　修理方設

一床階　作所奉行設

一疊

敷褥縁ヲ方南北左方右方ハ
東西神人ヲ設也不設時酒
殿ニ右神人ヲ中ニ疊ハ月為
座等ニ出ル置自然出ル座
又時板ヲ敷共先幄ヲ着タ
ルカ能ノ常ニハ冠頸不令故
高倉開車ヲ不令故社ノ
事ノ半ヲ二取寄テヨリ早
元参ル此頃ナン

（東）大敷（西ニ餝）鉦鼓　社頭ヲ素襖白ニ元着

（鉦）
歩様左ハ形斗ヶ右後ノ歩
一遣二遣三遣後見ノ三度
告ル

細引二筋大鞁鉦鞁指料
根左赤
右梨地　廊屋ニ有

私ニ云土器二三枚ヲ重ル
発気　後見右袴惟子麻上下
先是左右ニ馬場ヲトリ均
シ外ニ名並居ル御馬均シ
被入ル後見ノ指図ニ而
一左優文ノ馬均シ入待西ノ
右金津ノ馬西ノ埒ノ東上ル時
一遣右ノ馬下ル此一遣半右馬
登ル此ニ遣右ノ馬東埒ヲ取

横ニ行処ニ遣半ニ西ノ埒ノ東
登埒ヲ取下ル右登リ待左下リ
已ノ取已斜直ニ小コヲリ中コヲリ
大コヲリヲ放シ畧ス時中小
コヲリン畧也小振三反目ニ
月代神人ヲ以テ達テ召セト
云ヲアリ左登右ハ下ル別ニ口
傳アリ

一二番ノ番ハ出馬ノ出十番ノ番ハ
出馬ノ入定例ノ二番ヲ九番
ニテハ前ニ頁ノ方次第馬ニテリ
先埒ヘ入ル

一乗馬幄ノ通ハ馬ヲ折ヶ乾
頭ニメ面ヲ会ス事也

一声ノ合不合ト云事不分明ニ
トカリ冠頭合不合ニテ可変仍
右階下冠頭ニテ此付気ヲ声
当時ハ乗尾互ニカケ乍ラ始馬
出シ掛ケル故

一一番ノ左勝負ノ鉾ガ前ニ落
馬ノ時大数不手左右共鉾
ヨリ前落馬円断入直ニ大数
不手ノ

一声合放後馬出又ハ若負ニ
声不合扣ケルハ入直ニ可成声
不合ニ追馬ノ出ルニ先馬ノ
扣ケルハ若負ニ先馬ニ入直
ニハ無キ事ニ追馬ノ出ルヲ
得トメス不調法ニヨリテ故

一頓宮ガ下ニテ落馬相手ノ馬
馳抜ケ射ハ上ヘハ乗上ヌ物トリ
乗下階下ヘモ不着下馬メテ帰
埒ヲ出ル時馬惜来ラヌメテ
出ル故実トリ頓宮ハイカヽ勝負
鉾ナルヘキカ

一馬損ケル時歩行ニテ幄行ハ
負ノ法ニ外ノ馬借一ノ乗着
一自分ハ馳洗代ニ乗時ニ撤
太刀乗ハ負ノ法也

一馳直ノ馬埒下ヨリ入ハ負ノ法
幄ノ乗ニ上ヨリ可入

一声不合入直ニ挙ケハ不知故
左方ヨリハ先変勝負扇ヲ出

此時右方ヨリハ谷ノ扇ヲ不出
仍テ入亜ノ馬ハ兼テ示合ノ通
方ノ扇不出前右方ヨリ早
卯ヲ出可然
一代ヲ立ルハ第一風中ノ座ヲ改ムル
然レ共入魂ニテ相調ヒ
手馬所階下ヨリ心得朝ニハ
着座ヘハ在ラシムル
一五番迄ハ五本ノ鉾横ニスル上下
三本ノ鉾ハ其儘ニ
五番済ル後ニ楯ニスルノ式
右ハ五番済後舞楽ノ
則件ノ鉾ニ舞ノ形ヲ
一初葉ハ勿論美ヲ変ズルカ能ク

初ノ亜葉ナトハ格別ノ願ニテナク
ハ持ニ致ノ然ト
一落馬ノ自分ニ葉下リ名代ノ
立ルヲハ不成ヲ痛アラハ不乗
ノ内ノ方ヲ差ス 先年義保
一勝負六ケ敷成テモ階下ヨリ
着座、尋ルヲハ甚不宜寛文
七年ノ比季通不及尋ノ
致シヲ着座勿体ナク
ニ不拘階下限ヲ可ナラ
ト心
一清足ヨリ敵ノ将ニ添テ馳レハ馬
先ニ出テモ負也トノ敵ノ馬ヲ
越テ於将ノ方ヘ寄ヲ可成云

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

但當時不用之

一馬進ミ番ノ作悪退ク退勢能ク勝負有歟ノ事トソ先年故肥前守馬ハ進ミニ作アリキ退馬イカニモ退勢能有氏基後見ノ時勝負ニ極ミタルトヤ

又先年保貞馬ハヲクレタルニモ退勢能持ニナリタル事モ有トゝヤ

一勝人イ子鞭ヲ出シ持ニ成タル事アリ先年恒氏央頸番ニ央頸イ子鞭ヲ出スト仍テ馬負ルト仍テ兵衛手ニ突落アル故持極ルトヤ

一埒内肝簀ヶ馬入ル時貴人ノ御座ノ西ノ階下ニ前ミ勝負ヲ未ダ決セス故前勝負ヲ尋ルヤ

一勅奉行ノコトリン牧奥ノ馬ニ乗テ未ノ方西ノ階下ヲ乗通ル時ノ素襖ヲ以出ル肝簀ハ一ノ中央ヤ

此ノ条清定筆記ニハ階下ノ勅使ニ乗ト以テ通ルヲ誤ト云々

一保貞云馬放ニ後大数ウタヽ又前ニ子細アルヘキ勝負ハ筆ニテ言合ノ印シヲ右方ノ階下ヨリ出ノ能トヤ仍テ太数

不打入直ノ時ハ太敷打ト云ヒ入直
ニ二大コウタストハ一可入ト馬ニ始
ニ大コウメストニ云ヒヤトリ故民
基ノ相傳ニ右ノ通也トリ
然ニ當時一足ヒ拔サヘニ
ウツナリ入ノ時ハ不打ナリ為
ノ考

季遥云當村清兵ノ伝右ノ
通ニ明和四亥ノ年参籠ノ時
古法ノ通ニ勝ト九ノ示ニヨリ
幕府中ヨリ御名前ノ内
勝ト当清ノ通達有ニ為
共彼名ヲ以ニ早速ト吟味
不及到ノ勝負ニ太敷打

抔近年ハ殊外速キ心得違
有地様ニ勝ト不當有ク
由風中也

傘取様 宝暦八戊寅年勝ト
呈顕清翁里亭出門前ヨリ
不絶降雨仍於庵屋傍ニ
邦氏産幸勝見直矢季遥
等ヲ誘ノ上御所屋ノ辺ヨリ素傘
朱傘ヲ(此ハ一ツ九ニ)中門ヲ取ニ
中門ヨリ内御籏屋ノ上ヨリ不
取傘ニ取敢ス庵屋ニ進ル布
衣朱傘ヲ為ル其ノ後ニ変ル
ヲ通也此所ニ手傘ヲ持ノ有ニ
処ナレ共拵ニ傘モ為ル故有ニ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

通変スルや

一御馬左之度々水次ニ南面ニ着
一宝暦十二五月節句階下若宮
ニ而ニ太刀着時陳入ル事無
而教覧先ニ門出ニ而後見
等為取不引度ニ而や
翌十三年ニ方上首延保第
ニ而ニ中示合ニ而待合被
ニや延保云先ニ出等ニ無ニ
ニやトリ保覚云駒込ニ出
待合ニ而ニ茶ニ有ニ
一宝暦十三五節句ニ此義連り
而降無ニ階下進刻限而

ニ降ニ而催ニ事御ニ降
見ニ而ニ待ニ処時ニ御行ニ而
ニや又方進時ニ而
又ニ而為ニや社頭
庭ニ而ニ処而ニ設有
ニ故茶智ニや経返不
ニ而ニ晴ニ誠ニや
此義民梁今時ニ微雨降
晴ニ八奉ニ之ニ其御而ニ
ニ抱御ニ義岡方ニ而
ニ而中速ニ而雨晴抱
御考ニ事ニ為御ニ知
官家ニ方ニ而為ニや
夫ニ事ニ等ニ而

所々先年之在方之方
違之事ゟ之儀
宿当ゟ相廻ゟ之事

右安永九庚子年 紀季
法光ゟ年季違ゟ当一覧
相渡ゟ年季借用之上紀
季ゟ光ゟのゟいて写ゟ
ゟ之競馬記并絵図
お紙ゟ競方ゟ此一冊ゟ
存寄ゟかゟゟ

五月五日競馬当階下法眼ゟ
宴顕宗花

右覚悟能者文政三庚年
五月五日右階下保真ゟ法眼
後流ゟ相勤ゟ今度依
初度法ゟ後流ゟ今回供
写置ゟ者

大中臣経千

競馬追加

一若葉馬追鳥居之人者被放氏人古法也依之五月五日競馬葉尾或逆馬勝或不慮相馳欲追鳥居之時者態令落馬之社法也之尚

一元禄十七年甲申五月一日足汰毛付之時何レも馬欲定損依之

能朝倭文庄之即昏馬令

一若馬三疋痛甚之仕候間下行之名前可為事

地日可准之也

（安志ノ馬福田ノ馬ら競合安志ノ馬足損安志）

五月五日階下後見之覺悟

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

●奉幣使ノ階下ヨリ左方幄ヲ見時ハ弁人ヲ以下知イタシ
按察ノ堂ヲ左ノ事
●二度ニモ入ル時ハ右ヨリ入ル左方ヨリ右方階下ヘ申述事ニ左ヨリ出ル事ニ
中正面ニ出ル時ハ左ヨリ出ル事ニ右ヨリ出ル事ニ
●一二度ニ被仰ル時ハ少シ進テ仰ヲ承ル事ニ
スル事ニ是ニ准ジテ心得ベシ
●初度ハ少シ用捨アル事
●先ヲ呼ル時ハ少シ退テ仰ヲ承ル事ニ
●立ル時ハ仰ヲ承ル時ニ立ル事ニ
●先ヲ立テ入ル時ハ先ヲ退テ後ヲ退ル事ニ
●尤ノ行装中ニ差ヲ以テ
●尤ノ時ハ差ヲ以テ
●冠ヲ着ル事
●一度ノ拝ヲ終テ前ヲ着ル時ハ出ル口ニテ
右方ヨリ着ル事
●先ヲ立テ入ル時ハ先ヲ退テ後ヲ退ル事ニ
●尤ノ行装中ニ差ヲ以テ
●尤ノ時ハ差ヲ以テ
●尤ノ時ハ差ヲ以テ
●尤ノ時ハ

鉦ヲ様左ハ形斗ヲ右ノ方ヲ一遍二遍三遍後見ヲ三度
告シ又ハ下ニ声ヲ

細引二節大敷金敷括料
（左ヨリ右ヲ左方ヘヲ右ヘヲ左ヘヲ）
棟左赤　廊屋ヘ二出
右梨地　（客人ノ客ヲ取ニモ）
私ニ云土器土ニ投ル事ニ
参先　後見衣鮮惟子麻上下
（或ハ狩衣）
先是左右ヘ馬場ヲ下リ場
ヘ外ニ出並居ル時御馬場ヘ二
被入ル後見ノ参ル事
一左係文ノ馬場ニ入待西ノ方ヘ次
右金津ノ馬西ノ場ヲ乗上ル時
一遍右ノ馬下ル時一遍半右馬
参ル時二遍右ノ馬東場ヲ取

横ニ行処ニ遍半左ハ西ノ場ヲ乗
参場ヲ取下ニ右参リ待左下
巴ヲ取巴渕直ニ小ニヲリ中ニヲリ
大ニヲリヲ放ヘ客ル時中小
ニヲリヲ客也小振三反目ニ
目代神人ヲ以テ違テ召セト
云テアリ左参右ハ下ル別ニ口
傳アリ（小振客ル時ハ中小ニヲリ小振ヲ客ヘ
大小振二反ニテ放馬也）
一一番ノ番ハ出馬ノ出十番ノ番ハ
出馬ノ入定例ノ二番ノ九番
ニテハ前ニ負ノ方次退馬ニヨリ
先場ヘ入ヘ
一乗庭幄ノ通ヘ馬ヲ折付乾
頸ニメ面ヲ合ス事也

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一声ノ合不合ト云事不分明ニ
トカク冠頸合不合ニテ可攻仍
右階下冠頸ニテ此分気色声
當時ハ乗底ニカカルニ始テ馬
出シ掛ケル故
一一番ノ左勝負ノ鉾ヲ前ニ落
馬ノ時大鼓不打左右共鉾
ヨリ前落馬ノ時入直ニ大鼓
不打
一声合放後馬出ヌハ居負ニ
声不合扣ケルハ入直ニ可成声
不合ニ追馬ノ出ルニ先馬ノ
扣ケルハ居負ニ先馬ニ入直
ニハ無キ事ニ追馬ノ出ルヲ

得トメス不調法ニヨリテ死
一頓宮ヲ下ニテ落馬相手馬
馳抜ケ時ハ上ヘハ乗上ラス物トリ
乗下階下ヘモ不着下馬ニテ帰
埒ヲ出ル時馬場乗ノ子ニテ
出ル故実トリ頓宮ハイカヽ勝負
鉾ナルヘキカ
一馬損ケル時歩行ニテ幄ヘ行ハ
負ノ法ニ外ニ馬借一ノ乗者
一自分ハ馳洲代ニ乗時名撤
太刀乗ハ負ノ法也
一馳直ニ馬埒下ヨリ入ハ負法ニ
幄ヶ乗庭ニ上ヨリ可入
一声不合入直ニ等ノ一ハ不知故
左方ヨリハ先攻勝負扇ヲ出

此時右方ヨリハ答ノ扇ヲ不出
仍テ入手ノ馬ハ兼テ示合ノ通
方々扇不出前右方ヨリ早
卯ノ出可然
一代ヲ立ハ葉尻中ヲ左ニ乍ラ
然ト共入魂ニテ相調ヲ乍ラ
手馬所階下ヨリ也但期ニハ
着座ヘハ届ケシ由ニ
一九番迄ハ五本ノ鋒横ニスル上下
三本ノ鋒ハ其儘ニ也
五番済シ後鋒ヲ揃ニスルノ義
古ハ五番済後鋒葉ヲ
則件ノ鋒ニ而ノ形ト云
一初葉ハ賞美ノ変ルカ能
初ノ葉ナトハ格ノ負ニテナ
ハ持ニ残ノ然ト也
一落馬ノ自分ニ葉下リ名代ヲ
立ルトハ不成ト云ハ不葉
メ形ヲシ答ニ先年義保有
一勝負六ケ敷成テモ階下ヨリ
着座ヘ尋ルトハ甚不宜寛文
七年ノ比季通不及尋板ニ被
致シテ着座然共我ヨリ
ニ不拘階下限ニ可付ヲ勿
ト云
一清足曰敵ノ埒ヘ添テ馳レハ馬
先ヘ出テモ負也トソ敵ノ馬ヲ
越テ狩場ノ方ヘ寄ヲ可成云

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

但当時不審ノ
一馬進ミ来ル人ノ体悪ク退ク退
勢能ク見テ勝負ヲ決スル
トリ先年故肥前守馬ハ進ミ
ニ体アヲノキ退馬イカニモ退勢
能ク見テ氏基後見ノ時負ニ極
タルトヤ
又先年保貴馬ハラクレタルモ
退勢能持ニナリタル事モ有トヤ
一勝ノ人イ子鞭ヲ出シ持ニ成タル
事アリ先年恒氏央顕番
央顕イ子鞭ヲ出スト仍テ馬負
ノ仍テ共ヲ手ニ失ヒタル故持極
ルトヤ

一将ノ内肝煎ト馬入拍覚悟
シ西ノ階下ヘ前ニ勝負ヲ
来ル故前ノ勝負ヲ尋ルヤ
一勅奉行ヨリコヽリヲ投置ル
ヤ来ル右西ノ階下ヘ多中来
ル素襖ヲ以出口肝煎トノ
ヤ事ヤ
私ノ此義清是筆記ニ階下ト有義
ハ、階ノ下ト云ヘキヤ
お遠慮
一保貴云馬放テ後大鼓ウツ
又前ニ子細アルヘキ勝負ハ前
テ言合ノ印シヲ右方ノ階下
ヨリ出ル能ヤヤ仍テ太鼓

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

不与入直ノ時太敷与ト也入直
ト云大コウタストハ可入直馬ニハ始
ニ大コウタスト云半ヤトリ故氏
基ノ相傳ニ右ノ通ヤトリ
然ルニ當時一疋沈枝サヘスレハ
ウソナリ入直ノ時ハ不与ナリ尚
ノ考
季遠云當時清涼殿ノ御右ノ
通ニ明和四亥ノ年参殿ノ時
古法ノ通階下ニテノ示合ニテ
拿取中ニ清涼殿ノ拿取ノ内
階下ニ栄清通連有シ故
共御気色ヲ伺ニ早速吟味
ニ不及到着ノ勝負シ太敷与

枕近年ハ殊外延キ也案リ延
ル由風ナリ
由風ナリ

拿取按宝暦八戊寅年階下
呈顕清翁里亭出門前ヨリ
不絶降雨仍於廊屋催拿行
邦氏産幸後見直矢季遠
等ヲ渉ノ上御所屋ノ辺ヨリ素襖
朱拿ヲ支ヒ御所屋ノ辺ヨリ素襖
ヲ支ヒ中門ヲ取ル
中門ヨリ内南籍屋ニ上ル乃ハ不
取拿取幣祝刀屋ニ進ル布
衣朱拿ヲ取ル此ニ変別
ナル由也此所ニテ拿ヲ置ノ有シ
処ナレ共持物幣モ多シ故右シ

通変スルヤ

一南馬ヲ之後手水次ニ南面着
一宝暦十二五月節句階下若宮
ヨリ前ニ太刀着時際入ル手葉
尻教頭先ニ門出ル手後見
笏為汉下引床シル由ヤ
羽五十三年ヨリ左方上着必保笏
ヲ葉扇中ニ示合垂待合ヲ
ヨヤ必保云先ニ出ル事ハ無シ
ヲヤトリ保典云駒込ヨ出
待合スヲ前ニ有シトヤ
一宝暦十三節句ハ若連リ
西降ヨリ左階下進刻限雨

ふ降手催ス事儀ル後
見ル本降ニ処晴ニ修行ヲ先
ヲヤ又右方進時ヲ雨降
ル右又ヲ為西ヨヤ社頭
座見ヲ処西ヨ設有
ニ故ヲ替ヲヤ経ヨ不
後手経ヨ晴ニ執行ヤ
ヤ式氏梁今時ニ微雨後
晴ヨハ布ニ其侭西ヨ
ニ執行ヨ若刻方ヲ
ヲ死中違ル雨ヨ晴執
行ヲ事ヲ為所ハ知
官家ヨ方ニ死ヲ北処
支ハ事ニヨ事ヲヲ於南

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

所六先年も左方右方
違ひ事ありしと也

宮家より板妻迄の尋考

右安永九庚子年 紀季
後見に付季遠より当一覧
ねがひ申事ゆゑ紀
季、見るのにて写し置
右之也当競馬記并綾岡
分紙し就有之此一巻かく
有事をかるゝ也

五月五日 競馬会階下後見より覚、

宴覇家義

右覧悟記者文政三辰年
五月廿六日階下保真より後見
後嗣より相勤ゝ事今度依為
初度後の従後嗣を令奥借
写置ゝ也

大中大史経千

預于返か

一若乗馬過鳥居ニ人去被
放氏人古法也依之五月五日
競馬乗尻或逆馬場或不
慮相馳欲過鳥居ニ時者
態令落馬之社法也云ニ尚
他日可准之也

一寛永元禄十七年九月一日足汰毛付之
時安志馬福田馬与蹴合安
志馬足損依之館朝倭文庄
之即替馬令奉借相淵云ニ

一落馬ニテ痛有ニ時ハ他人階
下ニ行ニ及争叙可有ニ事

安政四丁巳年九月写之

経啓

階下後見之心得　私記

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

左方階下後見心得

一括紐用意之事
一置社人より取事 神人
一太鼓鉦鼓社人より取事 雑色
一掾廳屋より取事 雑色
一右方階下不見時ハ神人ヲ以知之事
一宮口馬立冠人時一番左へ馬可進
号鐘代中ヘ可達事
一一達二迚三迚之時鉦二声元歩
乗階下へ知之事
一左右之内勝負鉾過時太鼓一声
元歩乗階下へ知事 但金打ハ歩
一二番入埒時三番より小旗立男之後
右方階下へ可達事 但今多人数之

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一入直ニ時右方階下ヨリ早ク尋ニ乗ヲ
事
一一番ニ成抜出ル時ハヤク遠ク走ル馬
ニテモ持ニ是成無理ニ抜出ス可キ
心得ヤ
一初葉ニ走ル遠ク用捨ニテ有ルヘシ
一先馬呼追馬指縄不切時ハヤク
遠ク走ル持ニ
一追馬抜出先馬ト呼合時ハ勝ニ
セヌニ 但追倒又ハ故ヲ拵ニ
一勝負未ダ立川ニ落馬ハ負ニ
一落馬冠負ニ
一勝負未ダ前ニ左右共落馬ハ入直ニ
一相撲太鼓ニ景品ヲ返ス事

右方階下後見心得
一畳社人ヨリ取ニ来事一乗人
一楽屋ヨリ取ニ来事一雑色
一三番ヨリハ抜ヨリ後左方階下ヘ
中来ル事ニ成ハヤク達ス時賀
申ス可ク達事
一勝負未ダ一番左落馬ス時ハ出口
ニテ右方下馬ス事
一先馬追馬入抜共ニ抜ヲ相違ス時肝
煎中若同ス事
一入ヲス時白扇出ス早速奏ス事
一声不合抜出ハ入直ニ
一不離ヲ勿論入ヲス

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』 請求記号 832-305　ガラス使用

832
97
305

安政四丁巳年九月写之　経啓

一出ス気色等声合ヨリ離止タル共居
負ト但社頭合不合ヲ可要ト

一羽振ヲ束ノ埒ヘ参止タル是又居負

一羽振ヲ後ニサガリ止タル内居負ト

一勝負未定ニ一方落馬ハ負ト
左右共落馬ハ入申ト

一太刀或鞭ヲ落タルハ勝ニハセヌト其時
ハ自前ノ出早ニ左方ヲ違ト

一小振ト間落馬ノ時ハ勝ニハセヌト是
又早速其方左方ヲ申ト

一落冠ハ負ト

一相撲品ニ依テ幸ー

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第89冊』　請求記号 832-305

ガラス使用